

高知の複数の場所で確認されている特定外来生物 ① セアカゴケグモ (卵も規制対象です)



国内に輸入される資材などに付着して侵入したと考えられています。近年では国内の物流により分布拡大していると思われます。日当たりのいい地面近くの人工物の隙間などに営巣します。

攻撃性は高くありませんが、メスが強い毒を持っています。

原産地：オーストラリア

被害等：かまれると痛みや腫れを引き起こし、場合によっては吐き気や腹痛などの全体症状がでて重症化することがあります。

対策等：素手では触らないようにしましょう。駆除する場合は、市販の殺虫スプレーが有効です。ただし、卵塊には殺虫スプレーは効かないので靴で踏みつぶすようにします。かまれたときはセアカゴケグモに咬まれたことを伝えて病院で受診しましょう。重症化した場合は血清が必要です。被害予防のため、発見したらお住まいの自治体の外来種担当窓口にお知らせください。



【特 徴】

- オスとメスで形が違う。
- オス：5mm程度、全体的に茶褐色で腹部背中側の模様は灰色から褐色の地色に中央と縁側に白い線が入る。
- メス：1cm程度、成体は全体的に黒く艶があり腹部背中側にはひし形を二つ並べた赤い模様が入るが、未成年体には白い斑紋があり、オスに似ている。(写真はメスの成体)

高知の複数の場所で確認されている特定外来生物 ② ウシガエル (卵・オタマジャクシも規制対象です)



養殖用としてアメリカから持ち込まれ、ほぼ日本全国に分布しています。食用や実験動物として現在も利用されていますが、生体の利用は、事前に環境省の飼養等の許可が必要です。

原産地：アメリカ東部・中部、カナダ南東部

被害等：貪欲で、口に入る大きさであれば、昆虫やザリガニ、小型の哺乳類、鳥類、は虫類、魚類と幅広く捕食するため生態系への被害が拡大しています。また、水辺に生息するトノサマガエルなどの在来種との餌をめぐる競争が生じています。

対策等：夜行性で警戒心が強いいため、カニかごなどのトラップを使用して捕獲・駆除する方法があります。ただし、捕獲用具を使用する場合は、使用場所の漁業調整規則で規制対象漁具に指定されていないかの確認が必要です。オタマジャクシや卵は、網を使用したり、池干しで駆除する方法があります。



【特 徴】

- 体長 12 ～ 18cmの大型のカエル。体色は緑色から褐色までさまざまで虎斑(とらふ)模様がある個体が多い。背中に背側線はなく、大きな鼓膜がある。オスはウシに似た太い鳴き声を出す。
- オタマジャクシも大型で12 ～ 15cm。

高知の複数の場所で確認されている特定外来生物 ③

オオクチバス (卵も規制対象です)



釣魚、食用として大正時代に持ち込まれて、現在では日本各地の湖沼や小規模なため池、河川中～下流域、汽水域に至るまで多様な水域で見られます。通称「ブラックバス」と呼ばれ、主にゲームフィッシングで人気の高い魚でもあります。

原産地: 北アメリカ

被害等: 繁殖力・定着力ともに高く、他の魚や甲殻類、水生昆虫などを捕食し、水辺に普通にいたメダカや希少淡水魚が激減するなど、淡水の生態系に大きな影響を与えています。また、アユなどの漁業対象種にも深刻な影響を与えています。

対策等: 釣ったり、網ですくったり、大掛かりなものでは定置網を使ったりと全国各地でさまざまな方法で捕獲・駆除が行われています。繁殖を抑えるため人工産卵床を作り、そこに産卵された卵を陸揚げする取り組みもされています。



【特 徴】

- 体長は 30 ～ 50cm 程度。
- 体色は灰緑色で、背中側はやや黒く、腹側は白から黄色を帯び、側面には不規則な波紋がある。
- 口が大きく、目より後方に達する。

高知の複数の場所で確認されている特定外来生物 ④

ボタンウキクサ (液果・根茎も規制対象です)



観賞用として導入され、輸入・国内生産ともに行われていました。以前は、金魚用の浮き草として熱帯魚店やペットショップ、園芸店、ホームセンターでも広く販売されていました。

原産地: アフリカ

被害等: 繁殖力が非常に強く、水面を覆いつくすことで、他の植物の光合成を阻害したり、または水温や水質低下により多くの魚類などに悪影響を与えたり、河川や水路などの水流を塞いだりして地域の生物多様性の低下をもたらすことが知られています。

対策等: 繁茂場所から除去します。現在も水草として栽培されていることがあります。ボタンウキクサであることがわかったときは、野外に捨てないようにしましょう。ゴミとして出す場合は、生きたままの運搬は違法となるので、十分に乾燥・枯死させたいうえで、それぞれの自治体のルールに従って処分しましょう。



【特 徴】

- 葉はピロッド状で水をはじき、15 ～ 20cm の葉ボタン状で、水面に浮く。
- 親株から水面に平行して匍匐(ほふく)茎を伸ばし、子株を作って増える。
- 種子から繁殖する場合もある。



オオキンケイギク (種子や根茎も規制対象です)

緑化や園芸用として明治時代に持ち込まれました。宿根草で、かつては冬のグラウンドカバー効果が高いことや、花が枯れた後の姿が汚くないなどの理由によりワイルドフラワー緑化として、法面に大量に使用され、分布が広がることになりました。

原産地：北アメリカ

被害等：繁殖力が非常に強く、土手や河原で繁殖すると在来植物を覆って駆逐してしまうため、土手や河原を生育地とする希少植物の大きな脅威となっています。

対策等：丁寧な抜き取りや刈り取りにより除去します。種子が発芽して増えるだけでなく、根茎からも再生するため、同じ場所で繰り返し除去を続ける必要があります。刈り取った花や茎は運搬できますが、根茎は枯死させた後に運搬するようにしましょう。また、種子の飛散を防止するため花が咲く前に除去するようにしましょう。



【特 徴】

- 草丈 50 ～ 70cm に生長。
- 5 ～ 7 月にかけてコスモスに似た黄色の目立つ花が咲く。
- 花は中心部が筒状花、その周辺に舌状花がある。
- 夏～秋に 5 mm 程度の種子ができて風や流水に乗って散布される。



オオフサモ (根茎も規制対象です)

大正時代に雌株のみ観賞用として持ち込まれ、輸入や国内生産により流通していました。また、水質浄化に役立つとされ、河川の自然復元やビオトープに利用されていました。

原産地：南アメリカ

被害等：雌雄異株ですが、日本で確認されているのは雌株のみで、種子によって繁殖することはありません。繁殖力は強く、地下茎及び根・茎・葉の断片から増殖します。大繁茂して水面を覆ってしまうため、水路の流れを妨げ、在来の水生植物と競合することで、地域の動植物群集に影響をおよぼしています。

対策等：地下茎や根・茎・葉などの断片が残らないように繁茂場所から除去します。特定外来生物と知らずに栽培していたものがオオフサモだとわかった場合は、十分に乾燥・枯死させたうえで、それぞれの自治体のルールに従って処分しましょう。



【特 徴】

- 葉の色は粉っぽい白色を帯びた緑青色。
- 鳥の羽のような羽状葉が茎の節に車輪状につく。
- 茎は水中で枝分かかれながら横に 1m 以上伸びる。
- 6 月頃に水面上の葉の脇に花をつける。



アレチウリ (種子や根茎も規制対象です)

昭和 27(1952)年に静岡県清水港で確認されました。意図的な導入ではなく、アメリカやカナダからの輸入大豆の中に種子が混入していたと考えられています。

原産地: 北アメリカ

被害等: 土壌環境への順応性が高く、生長速度が非常に速いため、全国の河川敷等で大繁茂して、在来種との競合や駆逐により生態系に大きな影響を与えています。また、飼料畑でも大発生して農業被害を与えています。

対策等: 丁寧な抜き取りや刈り取りにより除去します。雌雄同株で1株当たり 400 以上の休眠性のある種子をつくり、土壌シードバンクを形成するため、同じ場所で繰り返し除去を続ける必要があります。種子の飛散を防止するため、花が咲く前の除去が効果的です。



【特 徴】

- 葉の直径は10～20cm、3～7回浅く裂け、つけ根はハート形にくぼむ。
- 葉の縁には鋸歯があり、葉の表も裏もざらざらしている。
- 花は8～10月に雄花と雌花が別々に集まって咲く。
- 果実は長さ約1cmの楕円形で、鋭い棘が密生する。



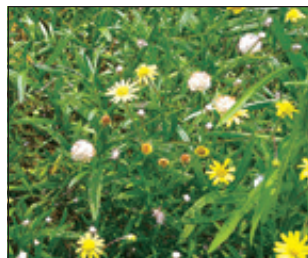
ナルトサワギク (種子や根茎も規制対象です)

昭和 51(1976)年に徳島県鳴門市で確認されました。意図的な導入ではなく、種子が埋立地の緑化のために輸入されたシロツメクサなどの種子に混入していたと考えられています。

原産地: マダガスカル

被害等: 急速に分布を拡大しており、在来植物と競合して生態系に影響を与えています。また、アルカロイドの一種を含み有害であるため、草食動物や家畜への害が心配されています。

対策等: 丁寧な抜き取りや刈り取りにより除去します。タンポポと同様の綿毛のついた種子をつけ、風で運ばれるだけでなく人に付着することでも広がるため、花が咲く前に除去するようにしましょう。ゴミとして処分する場合は、ビニール袋等に入れて種子が飛散しないようにして、それぞれの自治体のルールに従って処分しましょう。



【特 徴】

- 茎は多数枝分かれして大きな株になり、直立した草丈は30～70cm程度になる。
- 枝分かれした茎の先に上向きに直径2～2.5cmの黄色の頭状花が多数咲く。
- 花はほぼ1年中開花し、生長段階の早い時期でも開花・結実する。